

「熱電プラザ2012」が開幕 展示会に15,000人が来場

東京ガスは11月20日～22日の3日間、東京ビッグサイト東1ホールで、エネルギーソリューション総合展「熱電プラザ2012」を開催した。テーマは、「熱と電気のオーダーメイドで、エネルギーのネクストステージへ」。会場では、時計回りに5つのコーナーに分けて、最新のガスコージェネシステムなどのガス高効率利用機器について紹介した。展示会への来場者数は3日間の合計で約15,000人。

3日間の会期中、東京ビッグサイト会議棟1階で、エネルギー・環境問題研究所代表の石井彰氏による「天然ガスと分散化が日本を救う」、経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部ガス市場整備課長の竹谷厚氏による「新しいエネルギー基本計画と天然ガスの果たす役割」、日本ホテル株式会社常務取締役の濱田賢治氏による「横浜ステーションビルにおける停電対応ガスコージェネシステムの導入」など17件のセミナーも開催した。さらに、東京ガス防災センターや、ガスコージェネを導入した病院施設などを巡る見学会も行われた。

展示会場の入口コーナーでは短編ビデオを上映し、「節電対策」「エネルギーセキュリティ向上」を目指して東京ガスが繰り広げる熱と電気のオーダーメイド

技術提案について解説。「熱電ソリューション」コーナーでは高効率ガスエンジンから発生した電気と熱を効率的に利用し、エネルギーベストミックスを実現する「ガスコージェネシステム」、家庭用や業務用「燃料電池システム」を展示した。

「電気ソリューション」コーナーでは停電時にも運転ができる発電機能が付いた電源自立型ガスエンジンヒートポンプ「GHPエクセルプラス」、自然エネルギーを源とする温熱により環境に優しいビル空調を実現するガス吸収式冷温水器「ナチュラルチラー」を紹介した。「熱ソリューション」コーナーでは工場の生産過程で発生する熱と蒸気の高効率利用を提案。新製品涼しい厨房「涼厨」を紹介した。

「輸送」コーナーでは環境に優しい天然ガス国産トラック車輛や海外エンジンメーカーが開発した大型トラック用ガスエンジンを展示した。

「輸送」コーナーでは環境に優しい天然ガス国産トラック車輛や海外エンジンメーカーが開発した大型トラック用ガスエンジンを展示した。



三浦工業の業務用SOFC

東京本社・東京事務所を移転

川崎重工

川崎重工業は11月26日付けで「東京本社（ガスタービン・機械カンパニー等）」を、12月3日付けで「東京事務所（プラント・環境カンパニー）」を移転した。いずれも新住所は、〒105-8315 東京都港区海岸1丁目14-5。電話番号については、東京本社に入居していたガスタービン・機械カンパニー等については変わらず。

「東京本社」☎03-3435-2111（代表）、「ガスタービン・機械カンパニー」ガスタービンビジネスセンター常用発電営業部営業企画課☎03-3435-2533。

一方、東京事務所に入居していた「プラント・環境カンパニー」営業本部営業推進室☎03-3435-6620、同本部産機プラント営業部産業プラント営業課☎03-3435-6621、同本部化学・低温貯槽プラント営業部化学プラント営業課☎03-3435-6631、同本部エネルギープラント営業部国内営業課☎03-3435-6641、同本部環境プラント営業部☎03-3435-6655、同本部プロジェクト開発営業部☎03-3435-6650。